

◆ 日本ジェネリックの生産体制

需要拡大するジェネリック医薬品を患者さまへ安定的にお届けするために、適切な製造設備及び試験機器を備え、工場間の品目配置の適正化・オートメーション化を図り、改正GMP省令を遵守した製造管理、品質管理体制のもと、高品質な医薬品の生産に取り組んでいます。



茨城県つくば市の北部工業団地には、長年当社の生産の中心となってきた「つくば工場」があります。高い生産能力を持ち、当社の安定供給の基盤となってきました。

さらに、2017年12月には「つくば第二工場」が竣工。最新鋭の設備で大量生産が可能な工場として建設され、2018年より稼働を開始しています。つくば第二工場は規模が大きく、工場全体がフルに稼働すれば、つくば工場を大きく上回る生産能力を有することとなります。

ジェネリック医薬品の工場としては国内でも最大級の規模となっています。



つくば工場

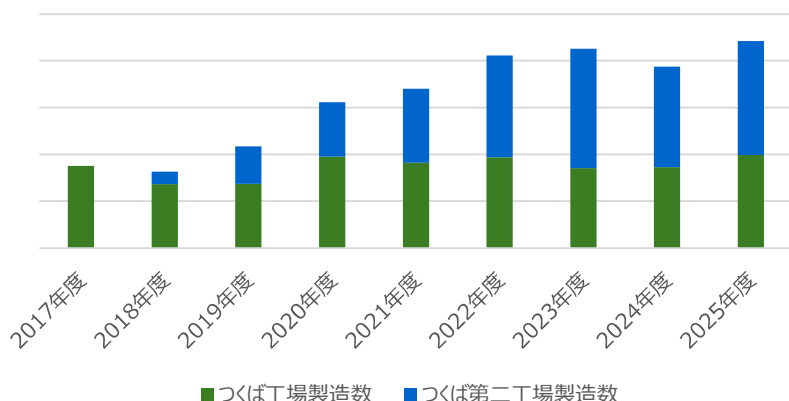


つくば第二工場

生産管理システム(MES)や試験室管理システム(LIMS)などの先端テクノロジーで、効率的かつ正確な生産プロセスを実現。

少量多品目に対応できる「つくば工場」と大規模生産に対応できる「つくば第二工場」が高品質な医薬品を安定的に市場に供給し続けます。

製造数の推移



製造品目数（受託品含む）

159 品目

(2026年3月末現在)



自社工場製造品の例

患者さまが安心してお使いいただける高品質なジェネリック医薬品を作り続けることが、私たちの使命です。

原料、包装資材の受入から、最終出荷に至る各工程において、改正GMP省令に基づいた品質基準で品質を管理し、出荷後の製品についても工場に保存している安定性サンプルで適切に試験を行い、使用期限内の品質をチェックすることで患者さまが安心して服用できるよう製品管理を行っています。

◆環境に配慮した、未来に貢献する工場

太陽光発電(グリーン電力)システムやカーボンオフセットLNGの導入、照明機器のLED化に取り組み、エネルギーの効率的な利用を実現しています。これにより、二酸化炭素排出量の削減や資源の節約に貢献、さらに廃棄物のリサイクル(マテリアル・ケミカル・サーマル)も推し進め、持続可能な社会の実現に向けて努力を続けています。



「地域社会への価値提供」を掲げ、製造工場におけるクリーンエネルギーの利用による低炭素社会の実現に取り組んでおり、寄付型コーポレートPPAを利用して、つくば工場敷地内のグラウンドに設置した太陽光発電設備(出力：703.5kW)で発電した再生可能エネルギー電力を使用することにより、年間約347.1t-CO₂の二酸化炭素を削減いたします。

PTP包装廃材

分解
再利用

建材等の原料とアルミ製品へ



不要となったPTPシートは、プラスチックとアルミをリサイクル可能な状態に剥離できなかったため、産業廃棄物として排出し、焼却しておりましたが、PTPシートのプラスチック部分とアルミ部分を剥離させ、プラスチック部分は建材等の原料として、アルミ部分は溶解後、様々なアルミ製品として再利用が可能となりました。

工場から排出されるPTP包装廃材をこのようにマテリアルリサイクルすることで、従来の焼却処理と比較して約9割の二酸化炭素排出量を削減する効果が見込まれます。

産業廃棄物

再資源化

発電用燃料や路廃材などに再利用



AIにて作成



製造工程で発生した汚泥は産業廃棄物として排出され、中間処理施設で焼却したのち、最終処理施設において残渣を埋め立てておりましたが、廃棄物から発生したガスを熱分解ガス化改質方式により再資源化(ケミカルリサイクル)するとともに、廃棄物は路盤材などに再利用(マテリアルリサイクル)することが可能となりました。工場から排出された汚泥は、焼却灰や飛灰を一切発生させることなく、埋め立て処分量ゼロで完全に再資源化することができます。

